

●行政情報●

令和3年度食料・農業・農村白書の概要

～いも類をめぐる状況について～

一般財団法人いも類振興会需要推進部長

なかざわ
中澤

たてお
健雄

本年の5月27日に令和3年度の食料・農業・農村白書（以下、農業白書という。）が公表されており、第Ⅰ部の動向編の中ではトピックスとして、新型コロナウイルスによる影響の継続、みどりの食料システム戦略に基づく取組の本格始動、1兆円を突破した農林水産物・食品の輸出、新たな国民運動「ニッポンフードシフト」を開始、加工食品の国産原料使用の動きが拡大など、7項目が取り上げられている。また、特集として、変化する我が国の農業構造を分析しており、主業経営体と法人経営体の割合が増加していることや品目構成ではコメの割合が減少する一方、若年層の割合が多い畜産や野菜の割合が増加していることなど

が解説されている。

以降の構成の中で、いも類に関する記述のある部分を紹介したい。まず、「第1章 食料の安定供給の確保」では、冒頭で食料の自給率と食料自給力指標について解説されている。食料自給力指標は、我が国における食料の潜在的な生産能力を表すもので、栄養バランスを一定程度考慮した上で、農地等を最大限活用し、熱量効率が最大化された場合の1人1日あたり供給可能熱量を試算している。いも類中心の作付では推定エネルギー必要量を上回っており、いも類が我が国の食料安全保障に大きな役割を担っていることが紹介されている。（図1）

次に、「第2章 農業の持続的な発展」

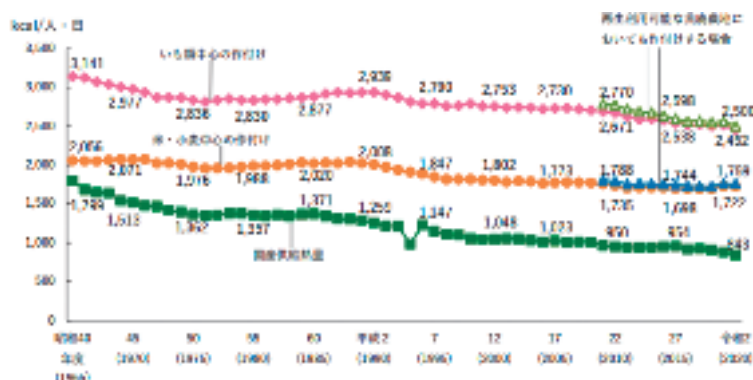


図1 食糧自給力指標（いも類中心の作付と米・麦中心の作付の相違）

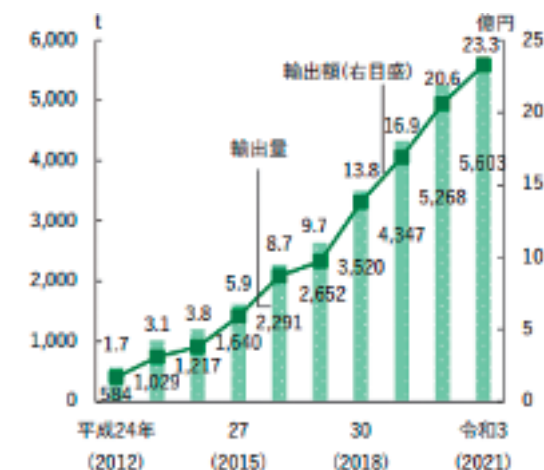
では、持続可能な農業構造の実現に向けた担い手の育成・確保や農業経営の安定化に向けた取組の推進、農業の成長産業化や国土強靱化に資する農業生産基盤整備、流通・加工構造の合理化等の動向について解説されており、その中でもいも類については以下のように紹介されている。

いも類

(かんしょの輸出額は13%増加、収穫量は減少)

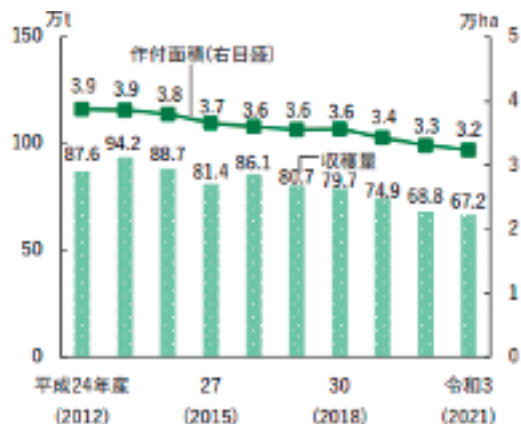
かんしょの輸出については、甘みが強く粘質性がある特性や、焼き芋による食べ方が注目され、香港、タイ、シンガポール等のアジア諸国・地域向けを中心に好調で、令和3(2021)年の輸出量と輸出額をそれぞれ5,603t(対前年6.4%増)、23.3億円(対前年13.1%増)となった。(図2)

かんしょについては、令和2(2020)年度以降、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県のほか22都道県でつるが枯れ、いもが腐る「サツマイモ基腐病」による被害が確認された。このため、農林水産省は、関係都道県と連



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

図2 かんしょ輸出量と輸出額



資料：農林水産省「作物統計」

注：令和3(2021)年度は概数値

図3 かんしょの作付面積と収穫量

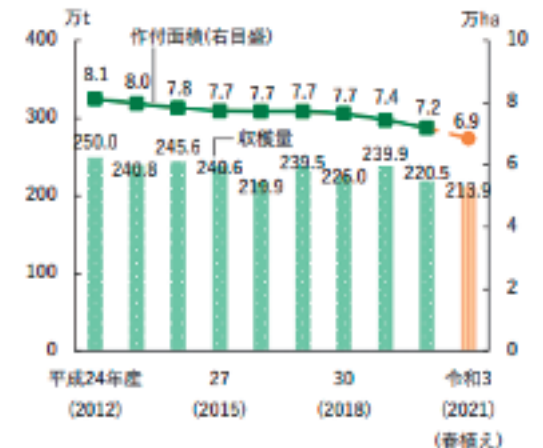
携し、健全種苗の生産・流通・使用の徹底や、ほ場における本病の早期発見・早期防除の徹底等のまん延防止に向けた取組を指導している。

令和3(2021)年産のかんしょは高齢化による労力不足に伴う作付中止等があったため、作付面積が前年産に比べ2.1%減少したことや、サツマイモ基腐病の影響により鹿児島県の単収が6.1%減少したこと等から、収穫量は前年産に比べ2.3%減少の67万2千tとなった。

(ばれいしょの収穫量は減少)

令和2(2020)年産の馬鈴薯の作付面積は、主に北海道において小豆やいんげんに転換した面積が多かったことから前年産に比べて3.4%減少の7万2千haとなった。収穫量は6月後半の低温、日照不足等の影響により、着いも数が少なく、単収が4.7%減少したことから、前年産に比べ8.1%減少の220万5千tとなった。

令和3(2021)年産春植ばれいしょは生産者の高齢化や労力不足により規模縮小、



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」、「令和3年度春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量」（令和4(2022)年2月公表）
 注：1) 春植えばれいしょの主たる収穫期間は、都府県(令和3(2021)年4月～8月)、北海道(令和3(2021)年9月～10月)
 2) 令和3(2021)年度の春植えばれいしょは概数値

図4 ばれいしょの作付面積と収穫量

作付中止があったため、前年産に比べ作付面積は1.6%減少し6万9千haとなり、収穫量は1.3%減少の213万9千tとなった。国産馬鈴薯の生産量が減少傾向で推移する中で、ポテトチップスやサラダ用等の加工用ばれいしょについては、メーカーからの国産原料の供給要望が強いことから、増産に向け、省力機械化体系の導入の取組や、収穫時の機上選別を倉庫前集中選別に移行する取組を推進する。

最後に、令和4年度に講じる施策の中では、いも類について、以下のとおり記述されている。

かんしょ

共同利用施設の整備や省力化のための機械化一貫体系の確立等への取組を支援する。

特に、でん粉原料用かんしょについては多収新品種への転換や生分解性マルチの導入等の取組を支援する。また、「サツマイ

モ基腐病」については、土壤消毒、健全な苗木の調達等を支援するとともに、研究事業（※注）で得られた成果を踏まえつつ、防除技術の確立・普及に向けた取組を支援する。さらに、安定的な出荷に向けた集出荷貯蔵施設の整備を支援することにより輸出の拡大を目指す。

※注：「産地崩壊の危機を回避するためのかんしょ病害防除技術の開発」

https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/innovation/01kaihatsu3_02.pdf

ばれいしょ

生産コストの低減、品質の向上、労働力の軽減やジャガイモシストセンチュウ及びジャガイモシロシストセンチュウの発生・まん延の防止を図るための共同利用施設の整備等を推進する。また、収穫作業の省力化のための倉庫前集中選別への移行やコントラクター等の育成による作業の外部化への取組を支援する。さらに、ジャガイモシストセンチュウやジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性を有する新品種への転換を促進する。

種子用ばれいしょ生産については罹病率の低減や作付面積増加のための取組を支援するとともに、原原種生産・配布における選別施設や貯蔵施設の近代化、配布品種数の削減による効率的な生産を推進することで、種子用ばれいしょの品質向上と安定供給体制の構築を図る。

いもでん粉の高品質化に向けた品質管理の高度化等を支援する。

糖化調整制度に基づく交付金により、国内産でん粉の安定的供給を推進する。

農業白書の全体版及び概要版は以下のWebで公開されている。

○令和3年度 食料・農業・農村白書（令和4年5月27日公表）全文PDF版

https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_

[maff/r 3 /zenbun.html](https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r3/zenbun.html)

○令和3年度 食料・農業・農村白書 概要版

https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_

[maff/r 3 /pdf/r 3 _gaiyou_all.pdf](https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r3/pdf/r3_gaiyou_all.pdf)

□寄稿のお願い□

一般財団法人いも類振興会では、サツマイモ、ジャガイモなどいも類の振興と消費拡大を図る一助として、「いも類振興情報」（季刊）を発行しています。いも類に関する総説、調査・研究、産地情報、海外情報、商品情報、料理、文化などの寄稿をお願いします。原稿の執筆要領は、下記のとおりです。

1. 原稿はパソコンのワープロ・ソフトを用いて作成し、E-mailの添付ファイルで送付下さい。なお、手書き原稿でもかまいません。
2. 編集の都合上、OSはWindows、使用ソフトは次のものを使用下さい。
本文はWord（一太郎、テキストも可）。図表などはWord、Excel、PowerPoint。
3. 掲載1回分の頁数（1頁で約1,200字）は、図表・写真を含めて概ね6頁以内となります。
4. 編集の都合上、原稿の一部を割愛、修正する場合がありますので、予めご了承下さい。掲載原稿には、規定の原稿料と掲載誌を若干部お送りします。
5. 原稿の送付先

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303 一般財団法人 いも類振興会
E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp TEL: 03-3588-1040 FAX: 03-3588-1225